

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0173501305		
法人名	医療法人社団 倭会		
事業所名	グループホーム しづく		
所在地	登別市柏木町4丁目24番地9 (電話) 0143-81-6160		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年11月11日	評価確定日	平成20年12月9日

【情報提供票より】 (20年10月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18	年	3	月	22	日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人			
職員数	17 人	常勤	16 人,	非常勤	1 人,	常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000	円		
その他の経費(月額)	水道光熱費 15000円 冬期暖房料10月～3月 5000円			
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無 有 / 無		
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200	円	

(4) 利用者の概要 (11 月 11日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護 1	7 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 86・5 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	なかがわ歯科 開田医院 ミネルバ病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の中にふくろうさんが迎えてくれる事業所である。豊かな自然がゆったりと残る敷地に季節の花や野菜が植えられている。事業所ホールには大きな石臼が有り、暮れには皆で餅つきが行われ、昔を思い出す楽しいひと時を過ごしている。2つのユニットを結ぶ中央には事務室、スタッフルームが有り、両ユニットの利用者が行き交い双方の情報が共有される様に工夫されている。室内は機能的に、又居心地良く過ごせる空間として、一人ひとりの思いと、ペースを大切にしながら、ゆったりと安心した暮らしが行われており、母体の医療法人の連携により今後一層の期待が持てる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題であった、運営に関する家族等の意見の反映は家族、地域の方々の話を丁寧にひろいながら、取り組まれている。職員の育てる取り組みも内部、外部研修資格取得などが計画的に行われており、介護計画の見直しも3ヶ月に1度行われ変化のある時は随時見直しが行われていて改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はユニットごとに全職員で話し合い、反省や気付きの機会として取り組み、改善へと繋げサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度運営推進会議が開催され、利用者家族、町内会、民生委員、地域包括センター、地域住民、ボランティアの方々、職員を交えて、事業所運営の報告や今後の予定の中で、12月に行われる救命講習、クリスマス会の打ち合わせなどについて、幅広い意見を取り入れている。回覧板で情報を提供し、事業所に足を運んで頂く機会を増やし、会議を活かした相互交流の取り組みが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	各ユニットごとは勿論、利用者個々にもアルバムが作成され、毎月しづく新聞も発行し、一人ひとりに合わせた報告を行なっている。更にフクロウの意見箱を設置し、家族の面会時や運営推進会議などの機会に加え、電話やファクスなども利用して意見や要望を引き出し、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年に4回「しづく新聞」を発行し町内に回覧をしたり、地域住民の中にとけ込み地域の行事へも積極的に参加し活動を行い、また地域の「こぶしの家」との交流も図り、双方向的な交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り上げられているが、利用者が地域で自分らしく暮らし続ける事を目指した理念には至っていない。	○	地域密着型サービスの意義を全職員で話し合い、利用者が住み慣れた地域で安心した暮らしを継続する為の理念を盛り込むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を共有し日々のケアに実践しているが、さらに理念を掘り下げ具体的な支援に取り組んで頂きたい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に4回「しづく新聞」を発行し町内に回覧をしたり、地域住民の中に溶け込み地域の行事へも積極的に参加し活動を行い、また地域の「こぶしの家」との交流も図り、双方向的な交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットごとに全職員で話し合い、反省や気付きの機会として取り組み、改善へと繋げサービスの質の向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議が開催され、多数の地域住民の参加を頂き、事業所運営の報告や今後の行事予定など打ち合わせの中で、活発な意見交換を行い、運営に反映させ、サービスの質の向上に繋げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「しづく新聞」を市役所に配布し、キャラバンメイトにも登録するなど、市町村と関わる機会を設け取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各ユニットごとは勿論、利用者個々にもアルバムが作成され、家族の面会時に見て頂きながら暮らしぶりを伝えている。毎月新聞も発行し、領収書の郵送時に家族の状況に合わせ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	可愛いフクロウのポストが意見箱として設置されている。家族の面会時や運営推進会議などの機会に加え、電話やファクスなども利用して意見や要望を引き出し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑えられている。利用者の混乱や不安を軽減するため、ケア内容や生活の様子など、職員間で情報の交換を行い配慮されている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は事業所内部、外部の研修や資格取得などに理解が有り、計画的な研修の機会を確保する為に、積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度のグループホーム広域連絡会、月1度の管理者同志の情報交換等、勉強会、見学、交流会などを通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得してサービスを開始して頂く様に、職員は利用前に自宅訪問を行い、また本人、家族にも事業所を見学して頂いている。入居時も利用者、家族が互いに安心してまで宿泊をするなど、徐々に馴染める工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に楽しむ仲間、悩みを話せる家族、一緒に行う作業を通して支えたり、支えられる関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と利用者との関わりを大切にし、職員間で情報を共有しながら、本人の思い、希望に沿って、散歩、買い物など一人ひとりに関心を払い支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の希望や意向を取り入れ、ミーティングでは個人の問題点等を全職員で話し合い、ケアプランを作成している。個々の日誌にもケアプランが記載され職員間での確認や共有に活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ミーティングで利用者の状態を話し合いケアプラン変更が必要な場合は、その都度見直しを行っている。必ず3ヶ月毎には1度、本人、家族に確認しケアプランの見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応え柔軟な支援が出来ている。家族の宿泊部屋も別に用意されており、希望された時は使用可能で利用者、家族のプライベートにも配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医や事業所の協力医療機関への受診や、訪問診療など、希望に沿った支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について、入居時にアンケートを通して本人、家族の意見を聞き入れ、事業所の介護指針も説明し同意を得ている。職員間でもミーティングなどで話し合い、方針の確認と意識の共有化が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを害わない対応を心がけている。面会時の「面会記録簿」も個別になっており、面会者の個人情報も保護され徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。散歩を希望される方は一日何度も散歩支援を行い、買物支援も希望があればその都度対応し、希望に沿った自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調に合わせてながら、食事の準備や片付けを職員と一緒にこなしている、バランスや色どりも良く、個人の馴染みの食器に盛り付けられ、食欲をそそり食事を楽しむ配慮がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には24時間入浴可能な体制である。体調不良時には清拭への変更、浮腫がみられる方には朝、夜の足浴ケアを行う等、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事やドライブ、散歩等の楽しみの支援や、生活の中で家事や掃除等、出来る事、出来ない事に考慮しながら支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の気分、希望に応じて買物や散歩、ドライブ等、戸外に出る支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	就寝時間帯以外は施錠していない。日中は外部の進入や安全面を考え、一応センサーマットを使用しているが、職員の見守りが行き届いているので、自由な暮らしが出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練や夜間想定 of 訓練は実施している。	○	事業所だけの避難訓練ではなく、地域住民の理解や協力を得るよう働きかけ、訓練に参加してもらう体制を作り上げる事を期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの摂取量を毎回記録し、職員間で情報を共有し把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やくつろぎスペースの天井には天窓があり、自然な光が差し込み居心地良く過ごせる空間になっている。又共用空間の仕切りの一部に傾斜している壁が有り、その仕切りによって利用者と職員のほど良い距離感が保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好みの物や馴染みの家具を使用する等、利用者の居心地の良い空間づくりが工夫されている。		

※  は、重点項目。